

ふおとニュース

環境について楽しく学ぼう！

11月15日に開催されたつばさ館まつりは、2千人を超える人出でにぎわいました。「家庭から出る生ごみに含まれる水分の割合は？ A=40%、B=80%」。大人も参加したクイズ大会に優勝したのは、小学2年生の佐藤和歩さん(天沼新田・右上写真中央)。「環境のことは興味があるので、前から勉強していました」と話してくれました。さいたま市から訪れた石上秀真くん(小学6年生)は自転車発電に挑戦。「電気を作るのは大変。家でもLED電球を使おうと思った」と電気の大切さを実感していました。(クイズの答えはB)



リサイクルできる「雑がみ」だけを釣れるかな？



ごみ収集車で記念撮影

子どもたちに人気のコーナーが盛りだくさん



赤十字救護員の制服でパチリ！



はしご車乗車体験



大型リサイクル家具大抽選会の展示会場



小江戸川越観光親善大使・川越CLEAR'Sも参加して会場を盛り上げました



LED電球は簡単に点灯。次に挑戦した60Wの電球に苦戦する石上くん



環境アイデアコンペでは、学生たちが環境問題についての政策をプレゼンテーション



行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸あるき



高校生が世界記録にチャレンジ！

11月3日、県立川越工業高校の生徒が、乾電池で動く電車が線路を走る最長距離のギネス世界記録に挑戦。秋田県にある由利高原鉄道の前郷駅・矢島駅間の往復約22kmを走破し、見事世界記録に認定されました。電車を製作したのは、同校3年、電気科電車班の生徒13人。同校では、昨年も乾電池で動く電車を製作し、校内を走らせた実績があります。実際の線路を走る電車を製作するのは容易ではありませんでした。



ギネス世界記録認定証

8月に現地で行った試験走行では、速度を確実に制御できるブレーキ作りが課題となりました。「油圧ブレーキのホースに少しでも空気が入るとブレーキの利きが悪くなります。確実に空気を抜く方法を、バイクの専門家に習いにいきました」と話したのは、木村招太郎さん。9月の試験走行では問題なく



車体のデザイン・塗装をしたのはデザイン科の2年生たち。車体にデザインした13の歯車は、電車班の13人を表しています

は問題なく



「やったぞ、おー！」と笑顔の電車班の皆さん

走ることができました。台車を担当した小池勇輝さんと室永真人さんは、モーターの力を車輪に伝えるギアボックスなどが効率よく動くよう改良を重ねたそうです。しかし、本番2日前、ギアボックスを支える金具の溶接が取れるというアクシデントに見舞われ、何とか修理することができましたが、「電車に乗っていたときは本当にとどきどきした。ゴールした瞬間は、うれしくて泣いてしまいました」と話します。ほかにも車体や電池ボックスなど、それぞれの担当が困難に挑み、それを乗り越えた末に手にした栄誉でした。



ブレーキ自体の数も増やしましたと話す木村さん



市長からの手紙

53 市債

平成26年度決算が9月議会(平成27年第4回定例会)で認定されました。決算の内容については、既に11月10日発行の広報川越でお知らせしたところです。

ここでは一般会計の市債(借入金)について、現状等をご説明します。

平成26年度は、市債発行額(借入額)が前年度より3割以上多い約149億円でした。これは、本年3月に竣工した西部地域振興ふれあい拠点施設(ウエスタ川越)の整備事業債約67億円を借り入れたこと等により、大幅に額が増えたものです。同様のことは平成21年度にもありました。名細地区に新清掃センター(資源化センター)が竣工した年であり、この年度の市債発行額も例年に比べて大幅に多い150億円以上の金額でした。

このように、大規模な事業を実施すると、どうしても起債額(借入をする金額)が大きくなる傾向があります。今後の予定でも、中期財政計画の試算では、平成29年度中の起債額は130億円近くになると見込んでいます。また、公債費(借入金の返済)は、今年度、約92億円ですが、平成30年度には110億円を超え、公債費負担比率も15%を上回る見込みのため注意が必要と考えています。

市債の活用については、メリットもあります。例えばウエスタ川越や資源化センターをはじめとした施設の整備事業などは、後の世代の人たちも、施設の利用等を通じて事業の成果や結果を享受できます。借入金の返済についても後の世代の人たちが負担することに合理性があり、今の世代と後の世代で負担の偏りを少なくすることができると考えられています。

市民の皆様に必要な事業は着実に進めていかなければならない一方で、公債費が順次増えていきますと、他の事業経費を圧迫することとなります。今後はこれまで以上に市債の増加の抑制に努めていく必要があるものと考えています。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して 9
冬も節電!

環境政策課 224-5866

「節電」というと夏に取り組むイメージがあるのではないのでしょうか。実は、冬は夏と同様に多くの電気が使われています。今年の冬は暖房器具の使い方を工夫して、節電に取り組みしましょう。

まず、エアコンの温度設定は20℃程度にしましょう。設定温度を2℃下げると、電力使用量を約7%減らせると言われています。肌寒いときは重ね着をし、体を温めてくれる食べ物などを取るようにしましょう。暖房を使用しても暖かい空気は約48%が窓から逃げてしまいます。暖房をつける際は熱を逃がさないように、窓に厚手のカーテンをかけましょう。また、扇風機などを併せて使うのも効果的です。暖かい空気は天井付近に、冷たい空気は足元にたまります。扇風機を天井に向けて使用し、暖かい空気を循環させることで暖房効率も上がり、快適に過ごすことができます。



また、今年の冬は一つの部屋に家族が集まってみてはいかがでしょうか。使用していない部屋の暖房や照明のスイッチを切れば、節電&家族だんらんでも体も温まります。

市では、家庭で節電に取り組むエコチャレンジファミリーを募集しています。家電製品の電力使用量を計測できる「簡易電力計」や、家全体の電力使用量がリアルタイムで分かる「省エネナビ」を無料で貸し出しています。ぜひご利用ください。詳しくは、環境政策課までお尋ねください。